

俳句 大津俳句会

塀の上歩きゆく猫梅雨夕焼

井芹真一郎

香を秘めて明日は山梔子咲きとうに

秋山 恵子

夕空を茜に染めてほととぎす

市原 初女

前山に色の加はる桐の花

江藤 みち

束の間の梅雨の晴間の散歩かな

大塚喜久子

梅雨霧にすつかりぬれて出し朝日

坂本 セキ

次々に上へ上へと唐菖蒲

佐賀 久子

大阿蘇も雲仙岳も夏霞

松尾 昭雅

夜の秋逢ひたき人はみな故人

渡邊佳代子

独り居の土間あるくらし燕来る

岡崎 浩子

山滴るどこか鼓動のやうなもの

森山美穂子

俳句 つのはな句会

父と子の歩幅を埋めに ほーたる来い

星永 文夫

玉ねぎの薄皮透かし明日を見る

上杉 波

新緑のB面わたしの指定席

矢嶋 道子

マスクという仮面を着けて五月尽

水野 春子

阿蘇の田は水うるわしく田植歌

梅木トキエ

ステイホーム君しか見えない麦の秋

塚本 洋子

不器用な振花 ひそかに老いが来て

榮田しのぶ

疲弊した地球に緑 蟻に羽化

志賀 孝子

虫偏の怪しい夏の影消えず

田上 公代

草茂る庭に自粛の気鬱佇つ

木庭 杏子

短歌 大津短歌会

女学生に還り学びしひとときの

夢より覚めて厨辺に立つ

渡邊佐代子

逝きし師の南郷谷に白雪は

忍ぶよすがとなりて降りつぐ

吉永 恵子

ジュズサンゴ赤く小さき実をつけて

と庭いろどる秋の日浴びて

豊岡ミツル

禍は終息知らぬ日々であり

明の明星に今日を託せし

管野 静

紫陽花の雨にけぶれる早朝に

か細く啼ける黒猫拾う

坂本 呆子

山あいの静寂のなか吾ひとり

葦の枯葉の音に聞き入る

鞍 岳志

緑濃く夕闇せまる公園に

テニスボールの音のみ響く

小平 善行